



～ 親子のあそびの時間における、母親のスマートフォン利用に関する意識調査 ～

65.9%の母親が、子どもと遊びながらスマートフォンを操作

平均で平日 28.1 分、休日 38.5 分の“ながら遊び”、約 8 割は「良くない」と回答

子どもの健やかな成長に「あそび」を通して貢献することを目指し、教育玩具・遊具の輸入・開発・販売とあそび場づくりを行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、4月中旬に、1歳～4歳の子どもの長子を持つ全国の母親 1,000 人を対象に、「子どもと遊んでいる時間にスマートフォンを利用すること」(以下、「スマホながら遊び」)についてインターネット調査を実施しました。

当社では、5月5日の「こどもの日」を、子どもの健やかな成長について大人全員が考える日とすることを提案し、社会全体が子どものあそびの大切さや子育て環境を見直すきっかけにしたいと考えています。

近年、生活のあらゆる場面にスマートフォンが浸透する中、親が育児の最中に操作し、子どもに向き合わないことを問題視する声も上がっています。本調査では、子どもとのあそびの時間にフォーカスし、実際に育児をしている母親の「スマホながら遊び」に対する実態と意識を明らかにします。本調査を通して、子育てにおける、親が子どもと向き合って接することや、目の前の子どもの様子をよく見て呼応することの大切さについて、改めて考える機会を提供したいと考えています。

【 調査結果のポイント 】

■ 母親のスマートフォンの利用現状

- 97.7%の母親が、スキマ時間があるとついスマートフォンを見てしまうと回答
- 91.7%の母親が、育児で困ったときにスマートフォンで情報を検索すると回答

■ 母親の「スマホながら遊び」の現状

- 全体の約 2/3 にあたる 65.9%の母親が、子どもと遊んでいる最中でもスマートフォンを利用
- 母親がスマートフォンを操作しながら子どもと遊んでいる時間は、平日 28.1 分、休日 38.5 分。これは、親子で一緒に遊ぶ一日の時間のうち、平日 17.4%、休日 15.8%にあたる

■ 「スマホながら遊び」に対する母親の意識

- 79.7%の母親が、「スマホながら遊び」をすることは良くないと回答
- 「スマホながら遊び」をする理由は、「子どもが一人遊びをしているから」(54.9%)が最多
一方で、97.3%の母親が子どもと遊ぶ時間を充実させることは重要であり、85.9%が子どもと向き合って遊ぶと子どものあそびに変化があると回答

【 考察 】

忙しい母親は外部とのコミュニケーションはもとより、育児情報源としてもスマートフォンを活用し、さらに子どもと遊ぶ時間にもスマートフォンが浸透しつつあることが調査から分かりました。「スマホながら遊び」では、画面に目が行き子どもの様子を見落としがちになりますし、最近ではスマートフォンから得られる育児情報に捕らわれ、目の前の子どもをしっかりと見ることができないケースもあります。育児のちょっとした悩みは、目の前の子どもをよく見れば解決できることも多いかもしれません。

当社では、子どもが自尊心を身に付け、心身ともに健やかに成長するためには、親が子どもの様子をよく見ながら、その様子に応じて声をかけたりなど働きかけをすることが大切だと考えています。今後も継続的に親子で向き合って遊べる機会を創出し、「目の前の子どもをよく見て子育てをすると、もっと親子の絆が強くなり、子育てが楽しくなりますよ」という提案をしてまいります。一緒に遊ぶことが子どもの様子をよく見ることにつながると考え、実際に今年のゴールデンウィーク期間には、子どもと向き合いながら遊べる数々の店頭イベントの開催を予定しています。

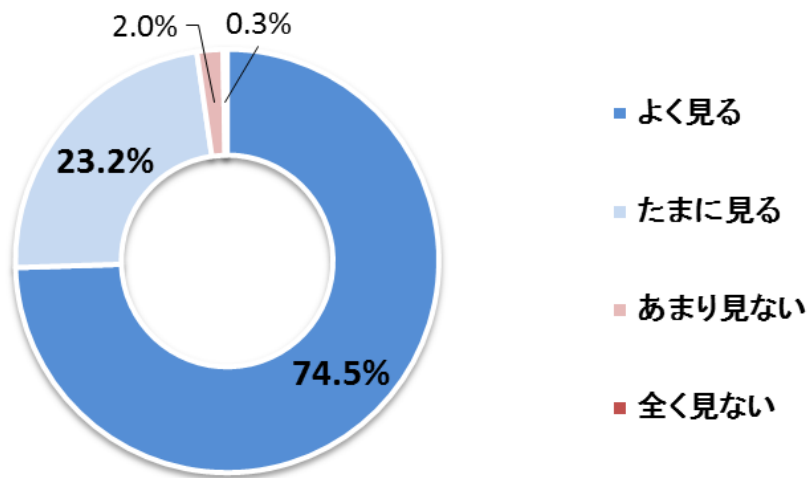
【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査
調査対象：1歳から4歳の子どもを長子に持つ、20代から30代の「スマートフォンを利用している」母親
有効回答数：合計1,000サンプル(20代・30代の時短勤務含む正社員・専業主婦 計4グループ各250名)
調査時期：2018年4月中旬

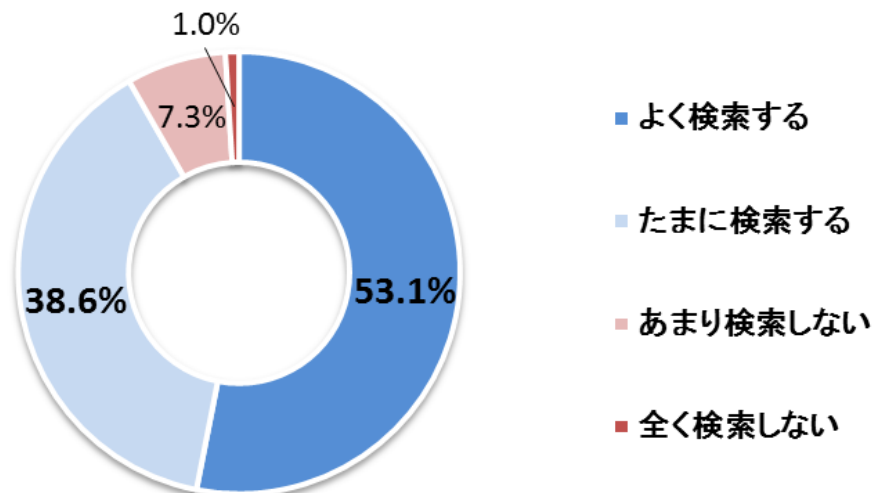
【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が100にならない場合があります。

母親のスマートフォン利用状況

Q. あなたは、スキマ時間があると、ついスマートフォンを見てしまいますか。



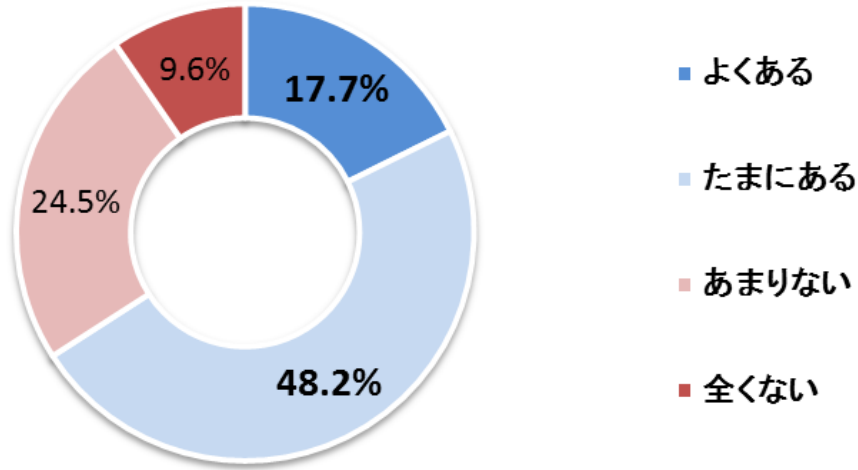
Q. あなたは、育児で困ったときに、スマートフォンで情報を検索することがありますか。



97.7%の親が、スキマ時間にスマートフォンを「よく見る」「たまに見る」と回答。また、91.7%が育児で困ったときにスマートフォンで情報を「よく検索する」「たまに検索する」とも回答しました。母親の生活や育児の中に、スマートフォンが浸透していることがうかがえました。

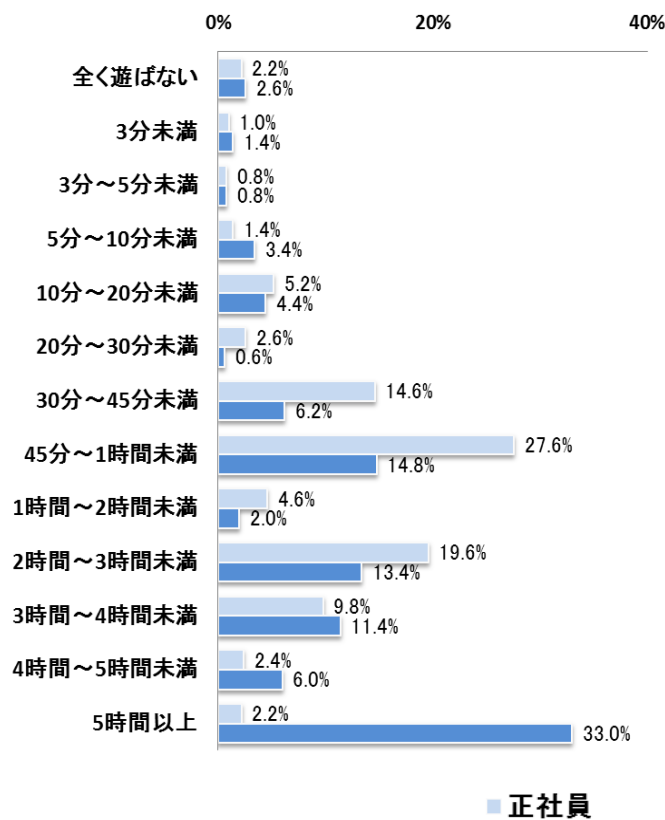
子どもとのあそび時間における、母親のスマートフォン利用状況

Q. あなたは「子どもと一緒に遊ぶ」とき、スマートフォンを操作することがありますか。
(子どもの写真・動画撮影を除く)

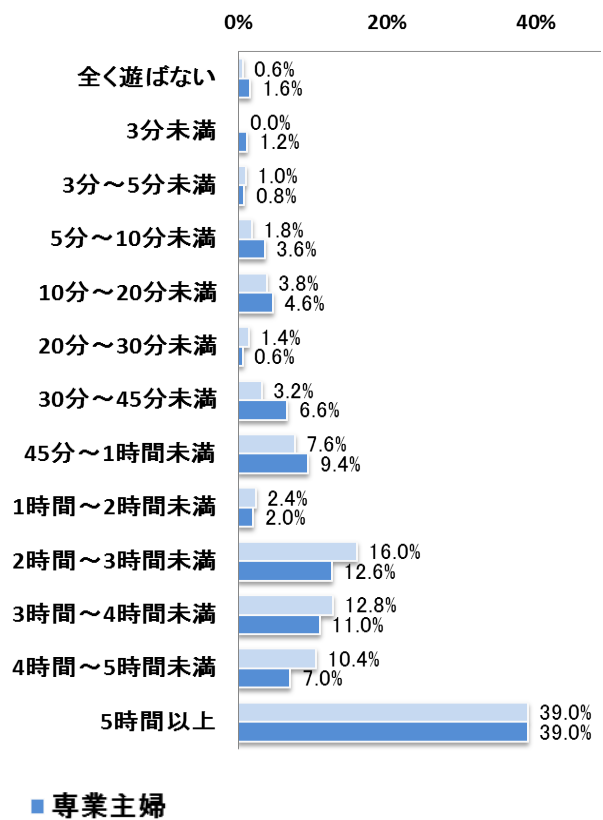


Q. あなたが「子どもと一緒に遊ぶ時間」は、一日で合計どのくらいですか。

▼平日: 平均 161.7 分

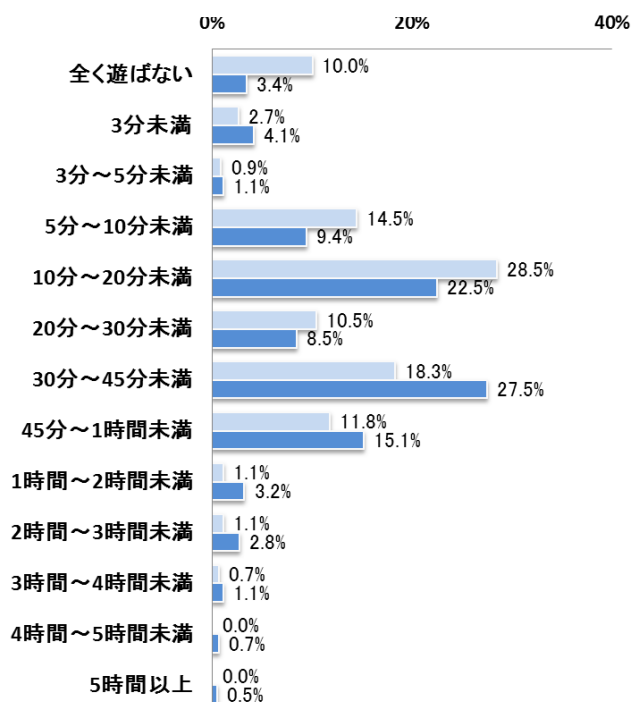


▼休日: 平均 243.4 分

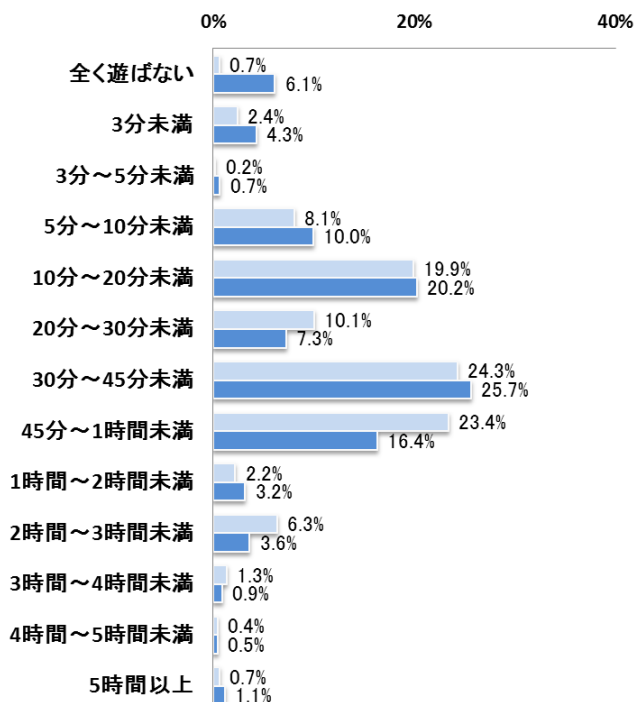


Q. あなたが、「子どもと遊んでいる間に」スマートフォンを操作する時間は、一日で合計どのくらいですか。

▼平日：平均 28.1 分



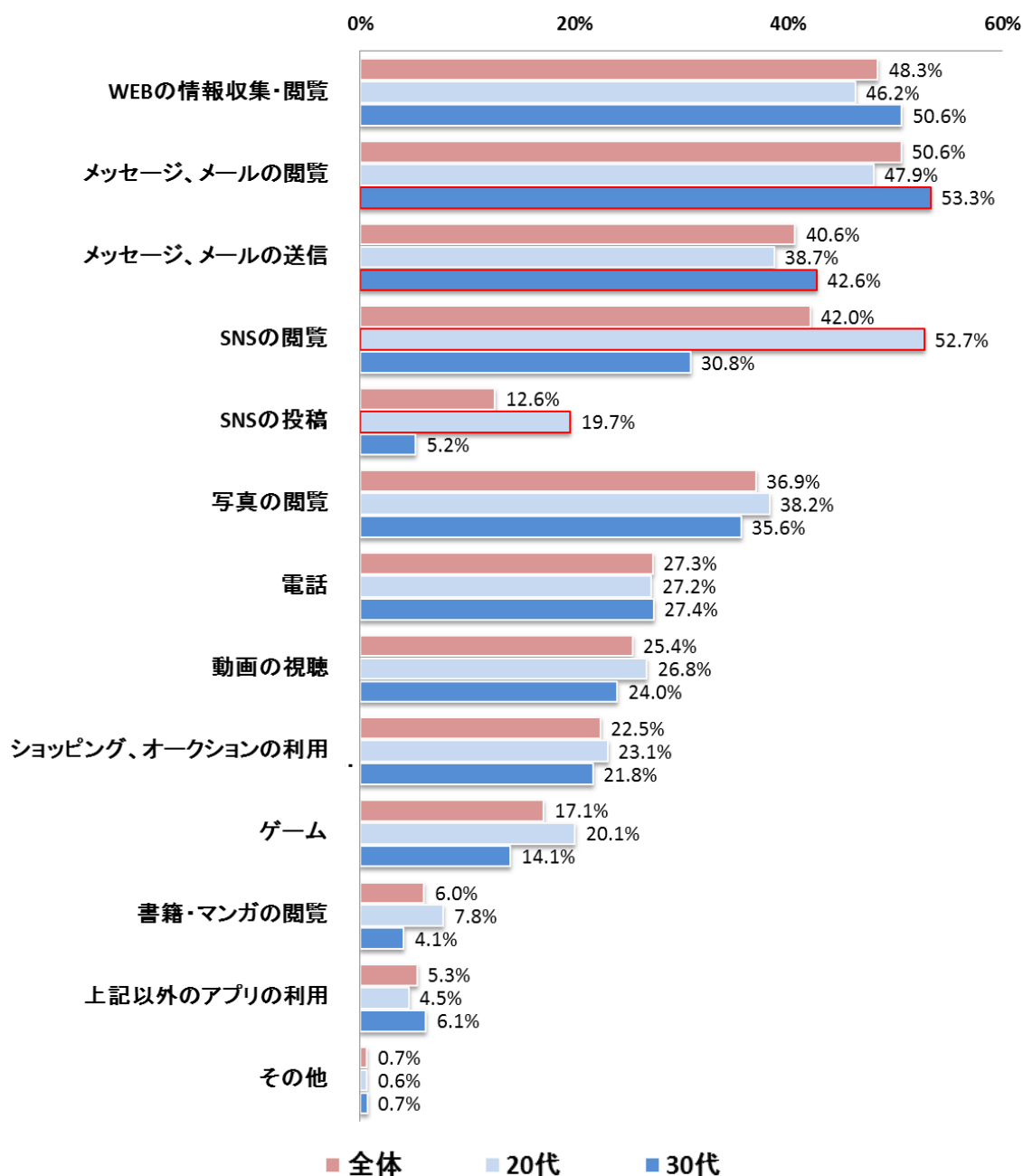
▼休日：平均 38.5 分



■ 正社員 ■ 専業主婦

全体の約 2/3 にあたる 65.9%の親が、子どもと一緒に遊んでいる時間にスマートフォンを利用することが「よくある」「たまにある」と回答。「全く見ない」と答えた親は、9.6%に留まりました。また子どもと遊んでいる時間全体のうち、平均で平日 17.4%、休日 15.8%の時間でスマートフォンが利用されていることが分かりました。なお正社員の母親では、平日の「スマホながらあそび」の時間があそびの全体時間の 20.2%となり、専業主婦の回答者よりも高い割合を示しました。

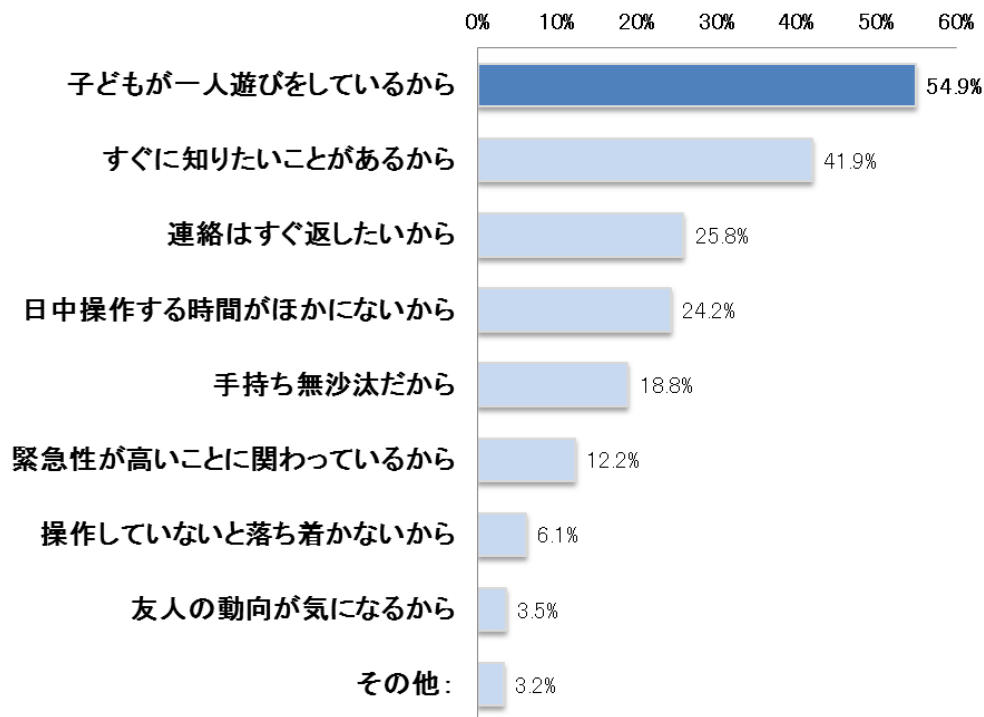
Q. あなたは「子どもと一緒に遊びながら」、スマートフォンを何の目的で操作していますか。(複数回答)
(子どもの写真・動画撮影を除く)



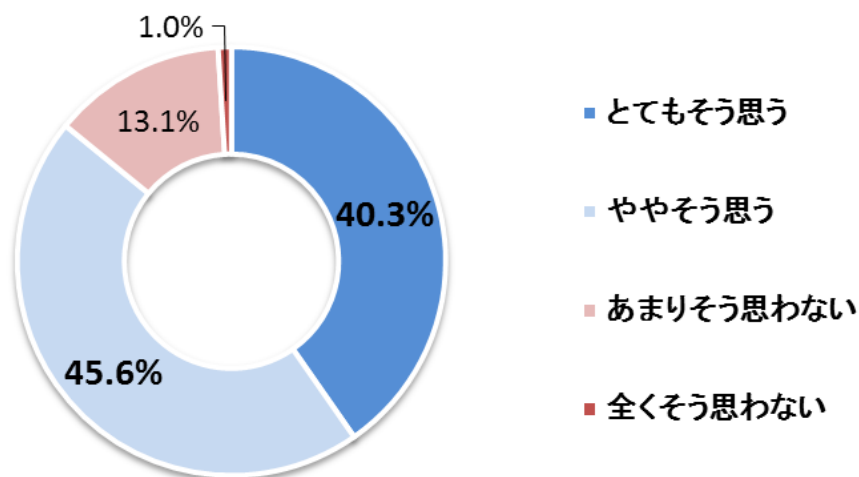
子どもと遊んでいる時間にスマートフォンを利用する目的は、「メッセージ・メールの閲覧」が 50.6%、「WEB 検索」が 48.3%、「SNS の閲覧」42.0%がそれぞれ上位 3 項目となりました。なお、20 代の利用目的上位 3 項目が「SNS の閲覧」「メッセージ、メールの閲覧」「WEB の情報収集・閲覧」であるのに対し、30 代では「メッセージ、メールの閲覧」「WEB の情報収集・閲覧」「SNS の閲覧」となり、年代によって差が生じました。

「スマホながら遊び」に対する母親の考え

Q. あなたが「子どもと一緒に遊ぶとき」に、スマートフォンを操作するのはなぜですか。(複数回答)

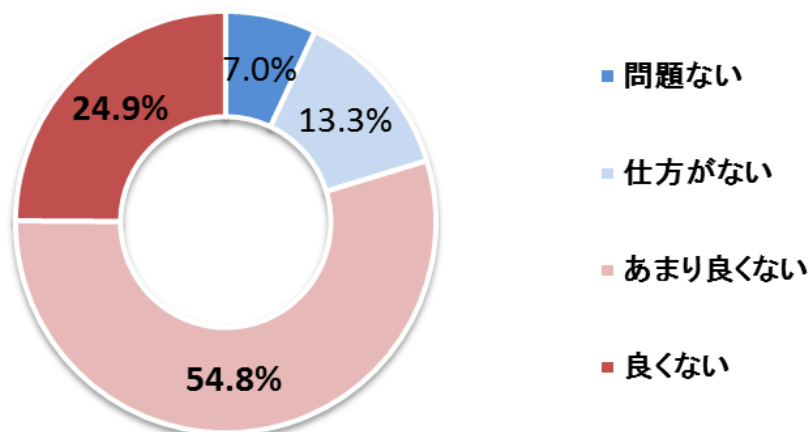


Q. あなたがスマートフォンを操作しながら子どもと遊ぶときと、スマートフォンを置いて子どもと向き合って遊ぶときでは、「子どものあそび」に変化はありますか。



子どもと遊んでいる時間にスマートフォンを利用する理由については、「子どもが一人遊びをしているから」が54.9%で最多となり、「すぐに知りたいことがあるから(41.9%)」「緊急性が高いことに関わっているから(12.2%)」といった、すぐに利用が必要となる理由を上回りました。「子どもが一人遊びをしているから」利用すると回答する一方で、親が子どもと向き合って遊ぶことで、子どものあそびに変化があると考えている親は85.9%に上りました。

Q. 「子供と一緒に遊ぶ」ときに、スマートフォン操作することについて、どのように思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをお選びください。



Q. (前問で)なぜそのように考えましたか。 ※自由回答

▼前問「問題ない」回答者に多く見られた回答

- ・スマートフォンを操作する時間が短いから
- ・子どもが一人遊びをしている、またはテレビ鑑賞など別のことをしているから
- ・子どもには注意を払っているし、安全な場面でしか使わないから
- ・自分の時間、気分転換の時間も必要だから

▼前問「仕方がない」回答者に多く見られた回答

- ・どうしても急な連絡が必要なことがあるから
- ・自分の時間、気分転換の時間も必要だから
- ・気になったことを調べるためにスマートフォンの操作が必要だから
- ・良くないのは分かっているが使わざるを得ないことがあり、そういう時は子どもに見えないように使っている

▼前問「あまり良くない」「良くない」回答者に多く見られた回答

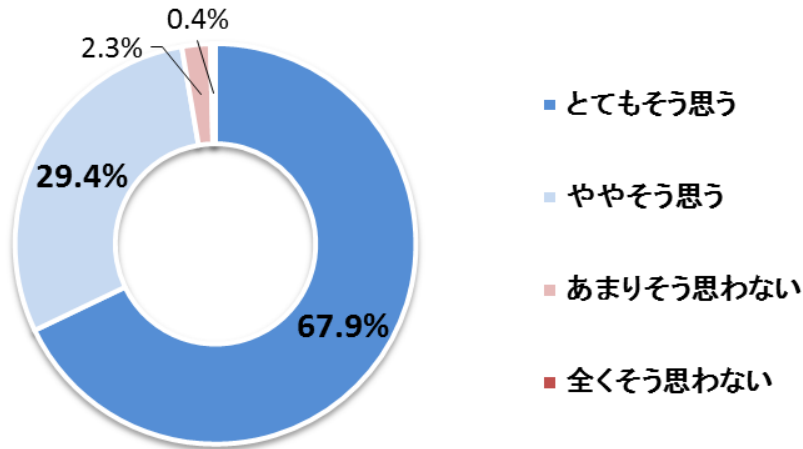
- ・子どもと接するときはちゃんと向き合ってあげるべきと感じるから
- ・子どもに寂しさを感じさせてしまうと思うから・実際に子どもに注意されたことがあるから
- ・ながらスマホが当たり前と感じるように育ってしまいそうだから
- ・世の中でよくそう言われているから

子どもと遊んでいる時間にスマートフォンを利用することについては、「良くない」「あまり良くない」と答えた方が79.7%に上りました。またその理由としては、子どもの感受性への影響に関することが多く挙がりました。

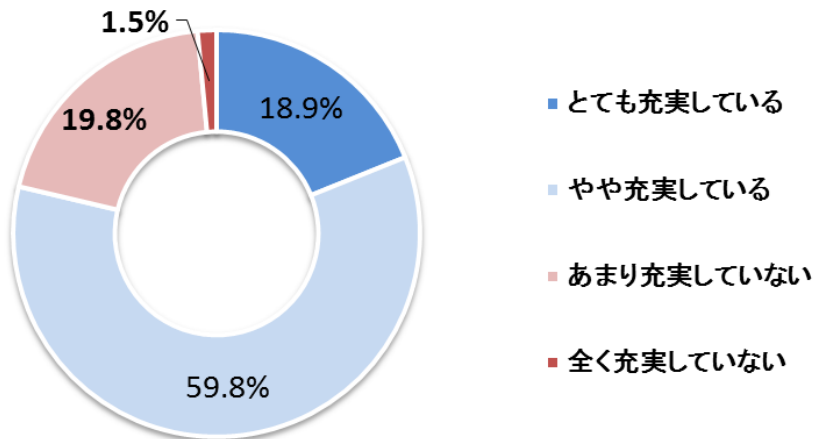
一方で、スマートフォンの利用は「問題ない」「仕方がない」と答えた親も20.3%存在。その理由として、「子どもへの悪影響がないように気を払っている」「どうしても使用せざるを得ない状況がある」「自分の時間を持つことも必要」といった意見がありました。

その他、あそびやスマホ利用についての母親の考え

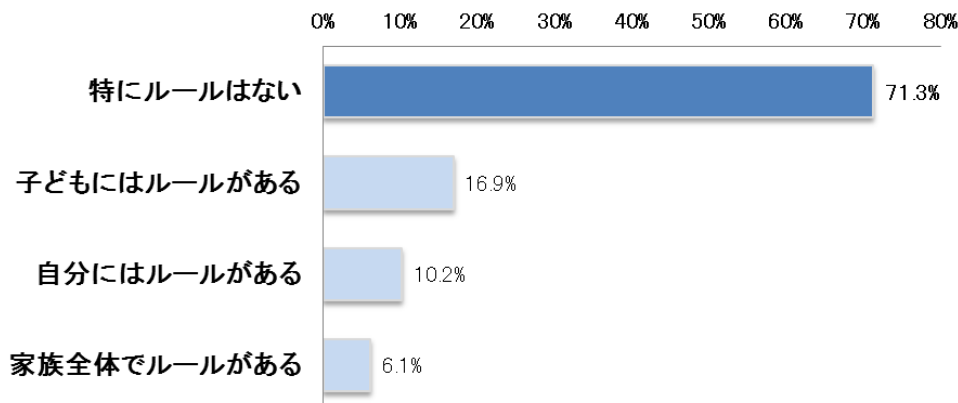
Q. あなたは、子どもと遊ぶ時間を充実させたい(させることは大事だ)と思いますか。



Q. あなたは、あなたと子どもが「一緒に遊ぶ」時間は、充実していると思いますか。



Q. あなたの家では、スマートフォンの使用についてルールを決めていますか。(複数回答)



97.3%の親が、子どもと遊ぶ時間を充実させることは大事だと考えていることが分かりました。一方、子どもとのあそびが「全く充実していない」「あまり充実していない」と回答した親は20.3%に上り、5人に1人以上があそびに課題を感じていることが分かりました。

また、スマートフォンの利用について、特に家族間でのルールがない家庭は71.3%存在することが分かりました。

【 親子で向き合って遊ぶ機会を提供します。ポーネルンドのゴールデンウィーク親子向けイベント 】

当社では、親が子どもと互いに向き合い、様子をよく見ながら遊べる機会を提供すべく、全国のポーネルンドショップ・室内あそび場「キドキド」で、ゴールデンウィーク期間中に親子のあそびイベントを実施します。



5月5日(土)、5月6日(日)に開催するイベント『かてんネンドで家族の顔をつくろう』では、親と子が相手をよく見合ってコミュニケーションを取りながら、お互いやパパ、祖父母、兄弟・姉妹の顔を色鮮やかな粘土を使って造形するあそびが楽しめます。

また4月25日(水)～5月6日(日)の間、全国のショップ・キドキド各店では、ゴールデンウィークフェア『～とことん遊んで、家族をつなぐ。～「こどもまつり」』を開催しています。期間中は、水遊びや日替わりの遊具を用いたあそびイベントをはじめ、親子で向き合って遊ぶ様々なイベントを開催予定です。

※店舗により、イベントの開催日時・内容が異なる場合がございます。詳細はウェブサイトをご覧ください。

【 ポーネルンドのあそび環境づくり事例 】

● ポーネルンドのあそび環境づくり事例①：ポーネルンド プレイヴィル 天王寺公園（大阪府大阪市）

大阪の天王寺公園は、かつて機能的に十分整備されておらず、地域の人々が集まる憩いの場とは言いがたい状況が続いていました。2015年、このような現状を打開するエリア再開発事業の一環として、近鉄不動産と当社が協業し、同公園エントランスエリア「てんしば」に、屋内外のあそび施設「ポーネルンド プレイヴィル 天王寺公園」を開業しました。年齢、興味、体力、ニーズによって変わる子どもの行動を考慮した多種多様な楽しみ方ができる施設で、大小様々な遊具で全身を動かしたり、砂や水などの自然に触れたり、汚れを気にせずお絵描きや自己表現をしたりできる環境が整っています。



● ポーネルンドのあそび環境づくり事例②：安城産業文化公園デンパーク（愛知県安城市）

「安城産業公園デンパーク」は、より子どもも楽しめる公園を目指して、当社と愛知県安城市が連携しリニューアルを行い、2018年3月にオープンした施設です。「プレイヴィル 天王寺公園」など、他の自治体と共同開発したあそび場の事例が、子どものあそびの促進や地域コミュニティの活性化といった、社会貢献につながる効果を認められ、当施設を当社が手がけることが決定しました。屋外には幼児が砂や水遊びを楽しめる遊具や、小学生が木登りをするようなチャレンジができる国内最大級の遊具があり、屋内では天候を問わず親子で思う存分遊べる環境が整っています。



● 子どもが思い切り体を動かして、主体的に遊べる室内あそび場「キドキド」

「キドキド」は、あそび不足に対する解決策の一つとして2004年にスタート。発達段階に応じた多様なあそびを存分に楽しめるよう、ポーネルンドが工夫をこらして設計した、親子のための室内あそび場です。常駐するスタッフ「プレイリーダー」が、たくさんのお遊びの見本を示して子どもたちのあらゆる体の動きを引き出し、親子のお遊びをサポート。子どもはのびのびと遊び育ち、大人は子育てがもっと楽しくなる場として支持されています。



● 地方自治体との協業によるあそび場プロデュース

ポーネルンドが提供するあそび環境は、子どもののびのびとしたあそびや、人々のコミュニケーションを生むことから、施設や地域の活性化を目指す数々の自治体にも注目されています。当社では、こうした自治体と協業してあそび環境を作ることも、精力的に行っています。これらの施設には、キドキドの開発・運営の中で培われた、子どもが自身の成長に繋がるあそびを心から楽しめる、道具や仕掛けのノウハウが集約されています。



【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため 1981 年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国 83 ヶ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万 5 千ヶ所まで拡大しています。また、2004 年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国 21 ヶ所、年間 277 万人以上、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の室内あそび場を含めると全国約 30 ヶ所、年間 350 万人以上の親子が訪れています。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーネルンド 広報室

担当：村上、金山

TEL：03-5785-0860 / 080-5901-3591

e-mail public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーネルンド

TEL：0120-358-518(月～金 10:00～17:00)